

広島県における業務改善の取組状況について

平成27年1月20日
初等中等教育分科会
チーム学校作業部会
資料3

〔平成27年1月20日〕
〔広島県教育委員会〕

1 これまでの経緯

- 平成23年1月 事務局内に、業務改善プロジェクト・チームを設置(チーム統括:教育次長)
→以降、事務局の業務見直しと学校の業務改善を実施
- 平成25年3月 上記の取組をまとめ、「業務改善事例集」を発行
- 平成25年7月 リーフレット「Challenge!!業務改善」を発行
→県内各地の優れた取組事例を紹介(これまでに11回発行)
- 平成26年3月 「『業務改善事例集』活用モデル集」を発行
- 平成26年度 外部の視点を活用し、更なる改善に向けた調査研究を実施中

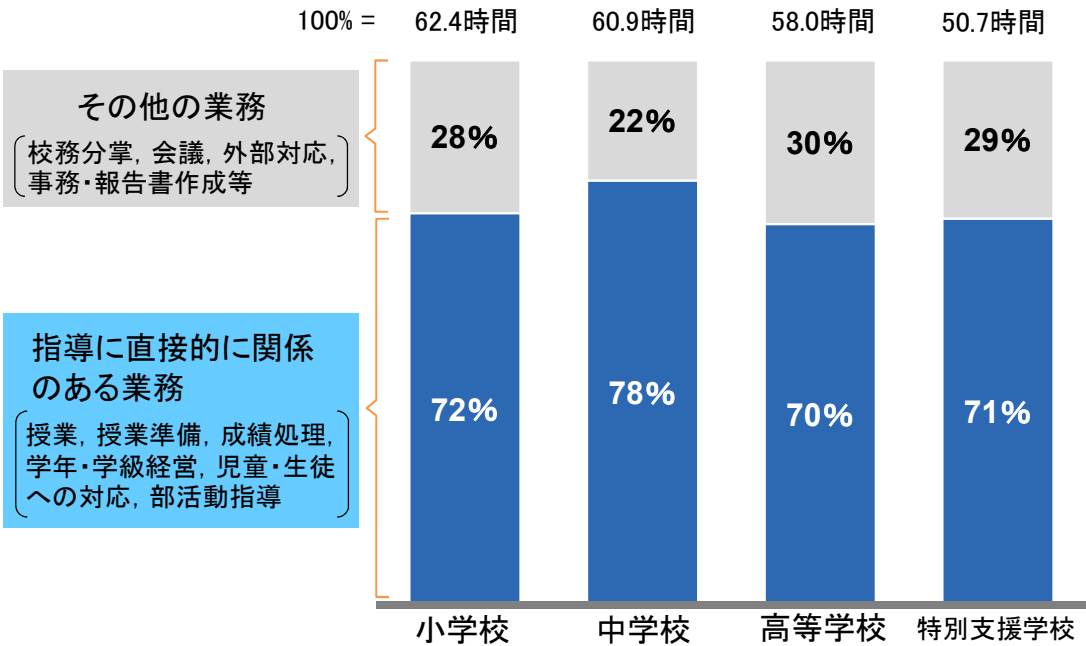
2 業務改善モデル校 (以下「モデル校」)

県立学校4校(高等学校3校, 特別支援学校1校)及び市町立学校6校(小中学校各3校)をモデル校に指定し、現状把握のためのアンケート・インタビューや改善策の試行等を実施

3 現状把握【アンケート等の結果】

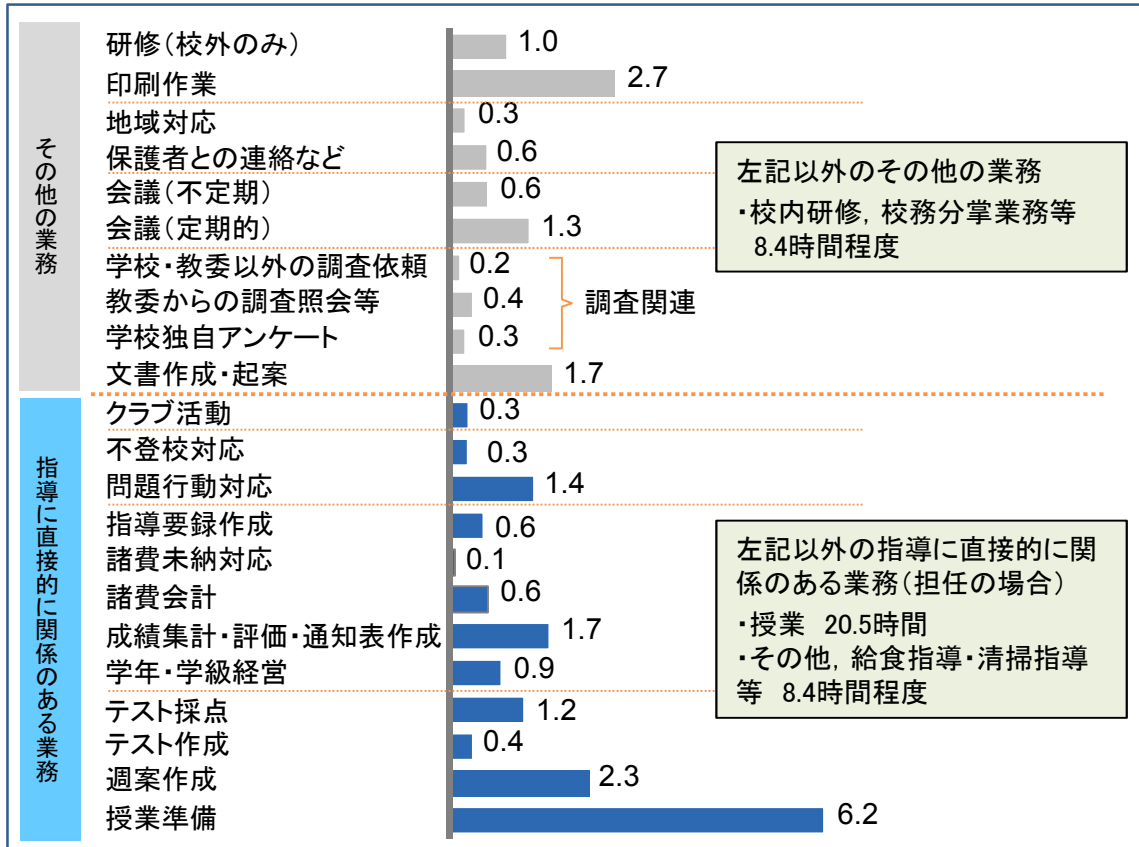
(1) 子供と向き合う時間

学校種別の1週間当たりの平均的な業務時間及び作業分布

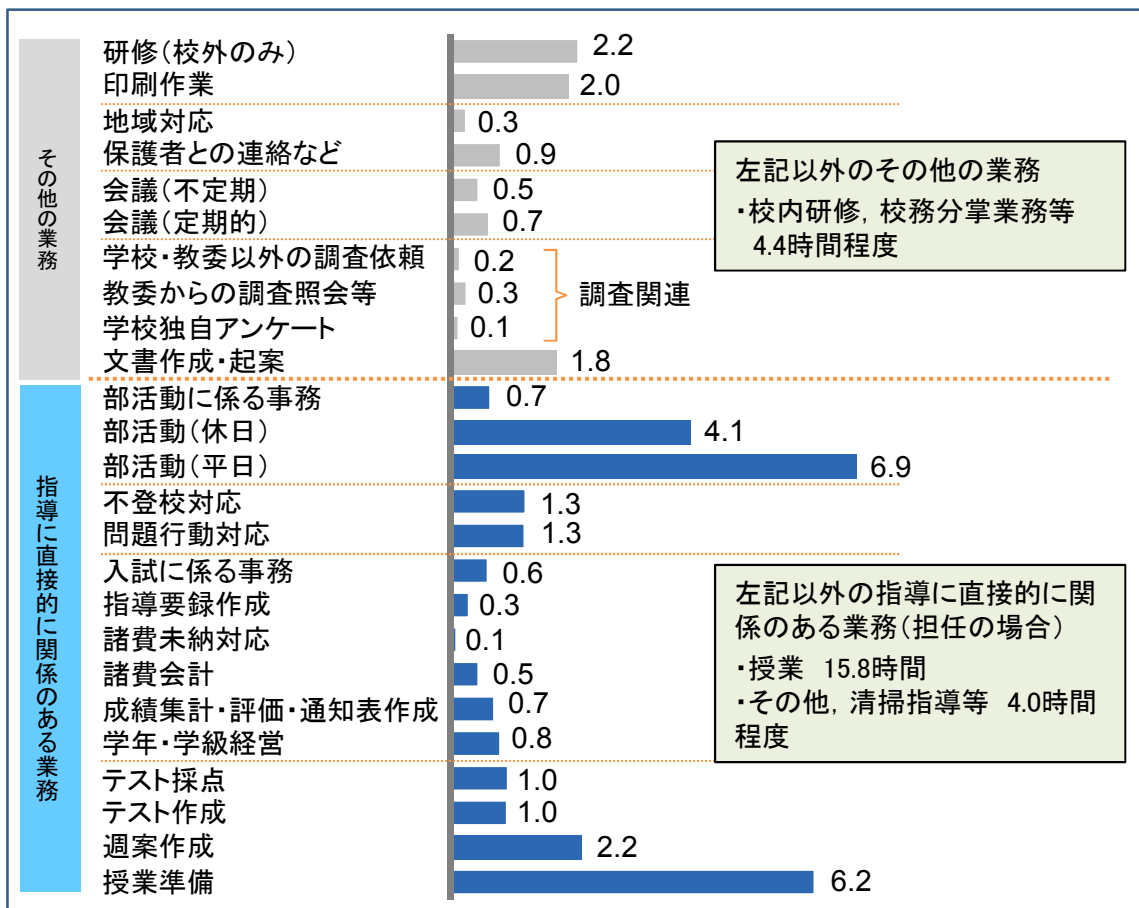


※ 業務時間は、アンケートを基にした平日及び休日の業務時間と持ち帰り業務の週当たりの合計時間

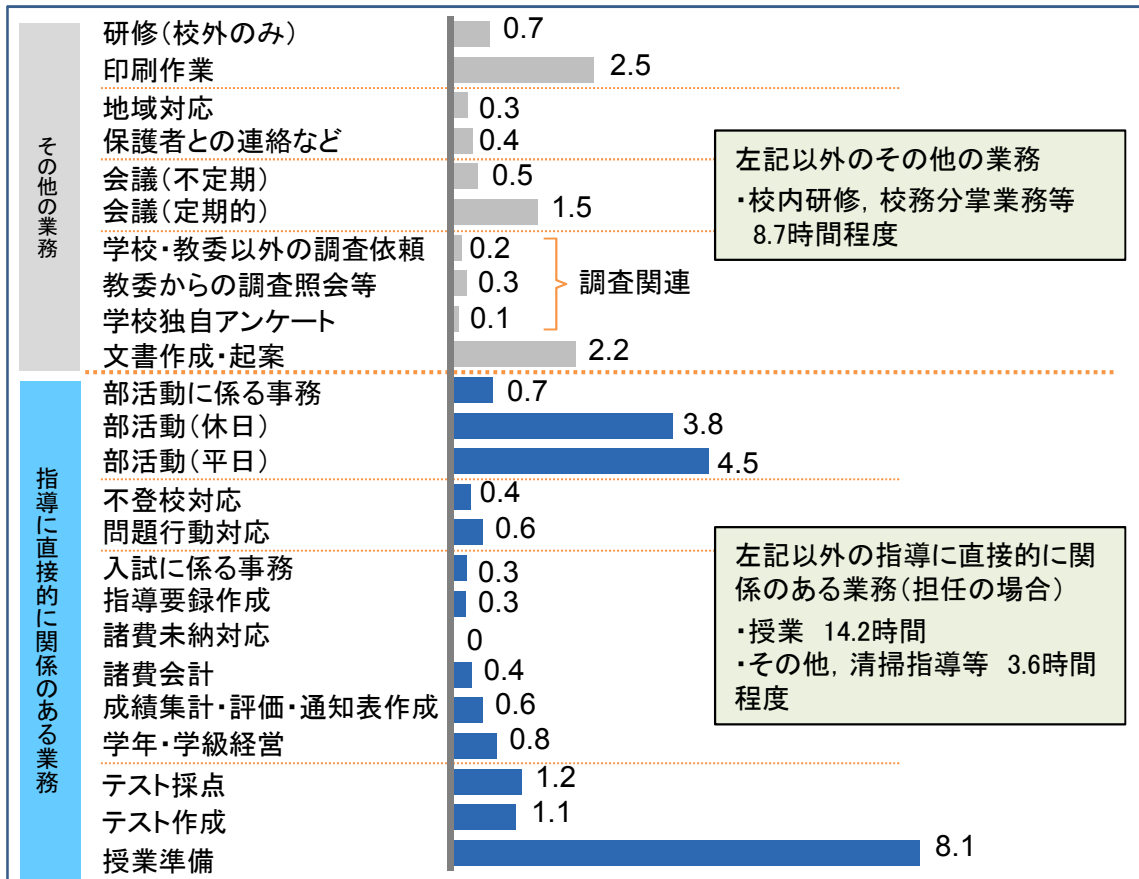
【小学校】 主な作業(一部抜粋)の平均所要時間 (時間/週)



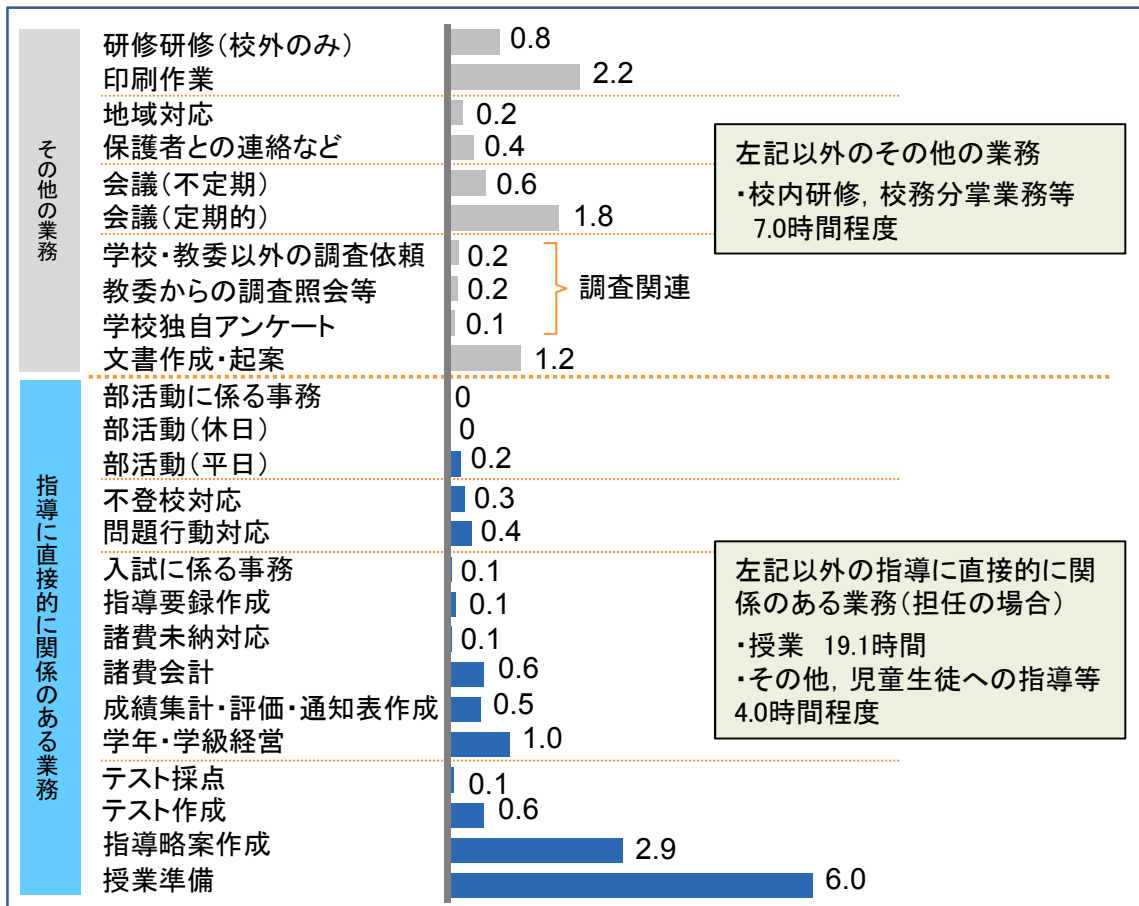
【中学校】 主な作業(一部抜粋)の平均所要時間 (時間/週)



【高等学校】 主な作業(一部抜粋)の平均所要時間 (時間/週)

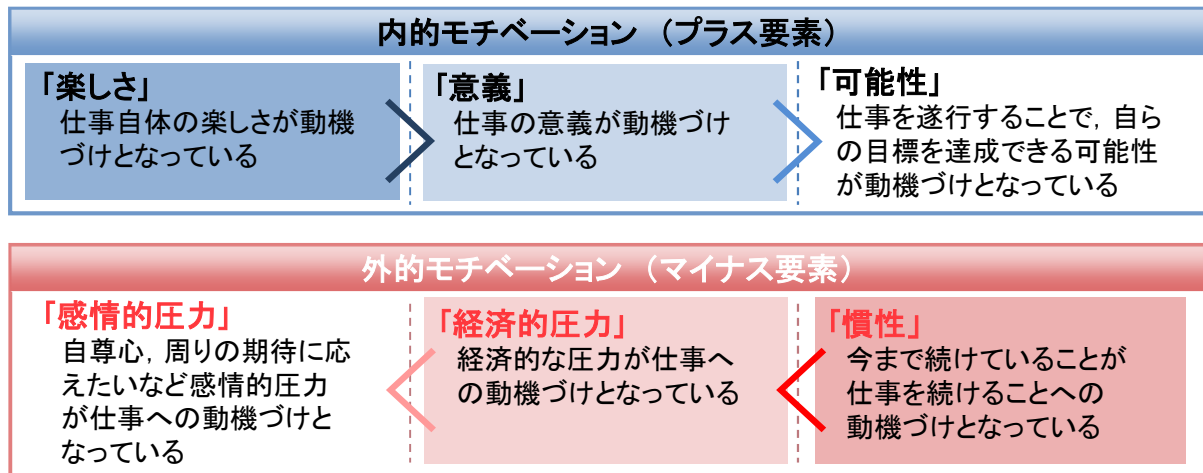


【特別支援学校】 主な作業(一部抜粋)の平均所要時間 (時間/週)



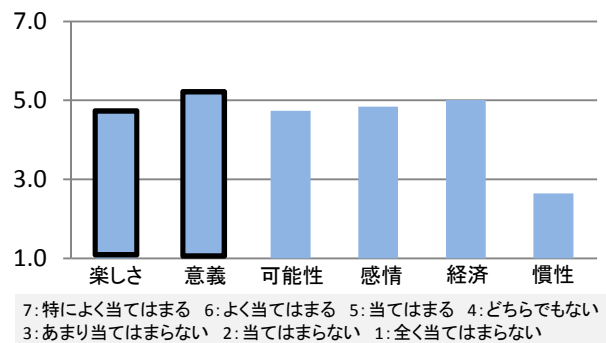
(2) 教職員のモチベーション

ア 「充実感」を構成するモチベーションの構造



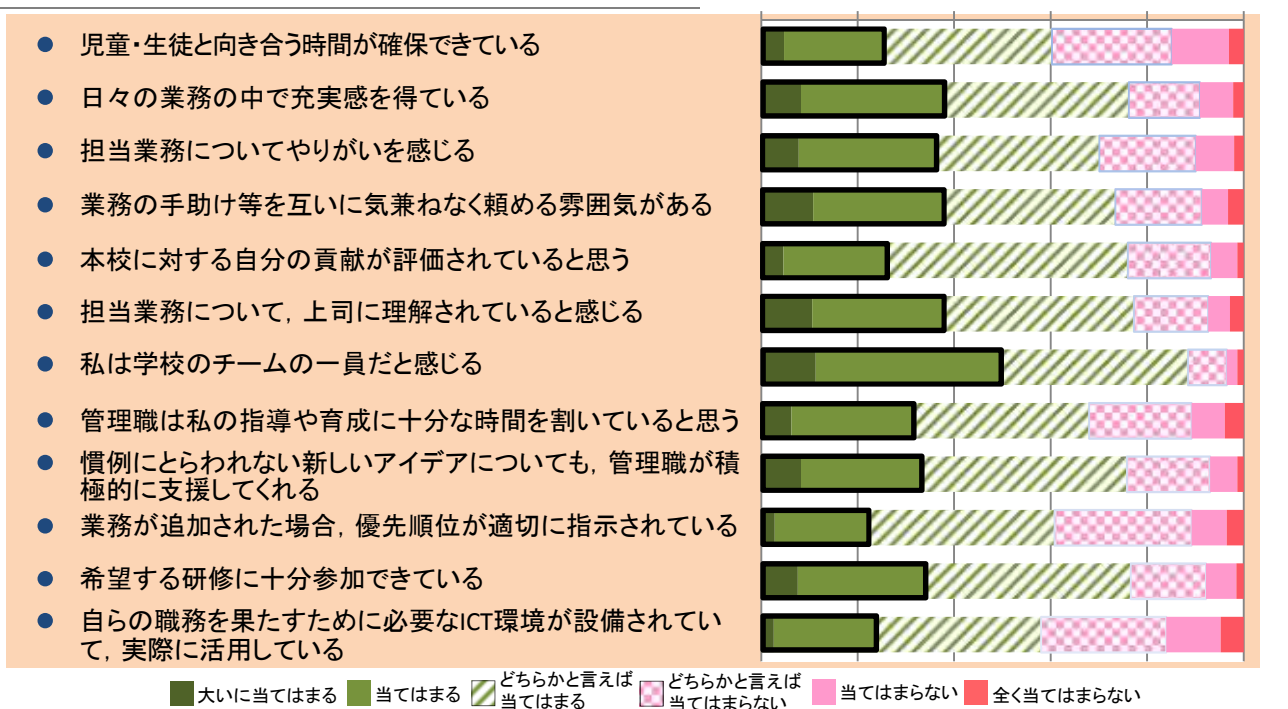
イ モチベーションの状況

- 全体的に、仕事に「意義」を感じている度合いは、他の要素に比べて高い。
- 仕事自体の「楽しさ」を向上させることで、更にモチベーションを高めることが可能である。



モチベーションを高く維持するためには、仕事に「意義」を感じることに以上、**仕事自体の「楽しさ」が重要**

ウ 「楽しさ」の向上につながる項目のアンケート結果



5 これまでの調査から見てきた課題

観 点	課 題
教員が専門性を発揮できる環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 教員以外のスタッフの配置が十分でないため、教員の専門性が発揮される業務(授業・授業準備)に専念できていない ✓ 今後、「広島版『学びの変革』アクションプラン」を推進していくためにも、教員が授業スタイルを変革させるための時間や研修機会の確保等の環境整備が必要
更なる効率化のためのICT環境	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 直接的に指導に影響する部分の整備(電子黒板など)は比較的進んでいるが、教員の作業効率・効果をより向上させる部分の整備(校務システム、個人メールアドレスの付与、メールの容量増加など)は、民間に比べて遅れている ✓ ICT環境の充実のためには、ネットワークやサーバーなどの抜本的な見直しが必要
管理職のマネジメントスキル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 管理職のマネジメントスキルのうち、特に様々な取組の優先順位付けや教職員に対するコーチング・フィードバック等のスキルの強化が必要 ✓ 民間と違い、管理職の管理スパン(部下の数)が広いため、役割分担・進捗確認・評価がより困難であり、職制の見直しやミドル層への権限委譲等が必要
県・市町教育委員会のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 改善のために新たな予算の確保が必要など、学校の自主性だけで解決できない策が多く、県・市町教育委員会のリーダーシップがより重要 ✓ 学校の自主性だけに任せることなく、学校の業務改善の取組を評価していく仕組みが必要

6 今後の取組の方向性について

